

道設備設計事務所協会

知識、技術向上を 新年交礼会で誓い合う

北海道設備設計事務所協会は19日、ポールスタール札幌で新年交礼会を開き、約200人の参加者



新年の抱負を述べる種市会長

が設備設計業界の繁栄と

本道経済の発展を願った。あいさつに立った種市由夫会長は、延べ2000平方メートル超の建築物の建築設備で、建築設備士の意見を聞くことが努力義務として盛り込まれた改正建築士法などに触れ、「より知識と技術力を高めなければならない」と指摘。また、後継者や若手の人材確保などの課題

に取り組み、分離発注拡大などの要望を続ける意向を示した。

来賓の清水侯二北海道開発局管轄部長は、官庁施設の老朽化や改正建築士法などにより、設備設計監理の重要性が増すとした。道建設部の宮内孝建築企画監は、設備設計業務でもプロポーザル方式を発注するために協力を求めた。札幌市の京谷篤都市局長は、作成を進めているアクションプランでの予算確保に努める考えを示した。

北海道建築士事務所協会の西村武会長が乾杯の発声をした後、懇談した。